

春季企画展

新和歌浦名所交遊鳥観園 館蔵

# うつりかわる 和歌の浦

2026年4月25日(土) ~ 6月21日(日)

前期：4月25日(土)~5月24日(日)・後期：5月26日(火)~6月21日(日)

協力：紀州東照宮、和歌祭実行委員会、和歌祭保存会、和歌山大学紀州経済史文化史研究所

休館日：月曜日（ただし5月4日は開館）、祝日の翌日  
開館時間：9時から17時（ただし入館は16時30分まで）

5月16日(土)・17日(日)は、  
国際博物館の日にもなみ入館無料

入館料：一般・大学生100円 高校生以下無料

※団体（20人以上）は2割引

※和歌山市が発行する老人優待利用券をお持ちの方は、本人のみ無料

※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方  
およびその介護人は無料。

## 関連イベント

### 展示解説

5月2日(土)・5月24日(日)  
・6月6日(土)・6月20日(土)  
いずれも14時から1時間程度

### しはくに和歌祭がやって来た！

5月10日(日) 14時~16時  
和歌山市立博物館（しはく）にて、  
雑賀踊、唐船・御船歌、唐人を予定  
観覧無料（展示をご覧の際は別途入館料）

和歌祭（餅搗籠）図 野際察春筆 館蔵

## 和歌山市立博物館

〒640-8222 和歌山市湊本町3丁目2番地  
TEL:073-423-0003 FAX:073-432-9040  
<http://www.wakayama-city-museum.jp>

和歌祭図 榎本権谷筆 館蔵

## 和歌山市立博物館

# 令和8年度春季企画展「うつりかわる和歌の浦」 展示のみどころ

### 1. 和歌の浦を様々な角度から描いた作品を紹介します。

和歌の浦周辺の代表的な10の場所をとりあげた明光浦十景図は、絵の題材として親しまれました。また、和歌の浦一帯を絵と文で紹介する和歌浦之賦図巻はくり返し写され、人気の高さがうかがえます。このほかに、江戸時代の終わりから近現代にかけて描かれた和歌浦図を展示します。



明光浦十景図のうち玉島春暁 岡本緑邨筆

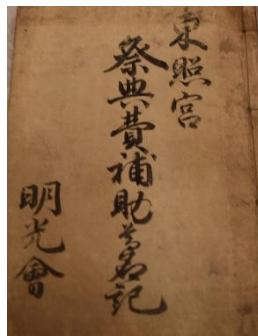
### 2. 近代以降の和歌祭の様相を紹介します。



和歌祭（餅搗踊）図 野際蔡春筆

明治時代以降、紀州藩が主体であった江戸時代とは異なり、和歌祭は徳盛社や明光会といった新たな組織や和歌の浦の人々の寄付金によって運営されるようになりました。しかし、運営資金の問題から次第に例年開催が困難となり、昭和期になると、戦争を背景に和歌祭は途絶えま

した。しかし戦後には商工祭におけるパレードとして復活し、現在は和歌の浦で毎年開催され、その歴史は続いています。本展示では、紀州東照宮所蔵の近代文書や和歌祭の古写真や、ポスター、絵画などを通して、和歌祭の時代毎の様相を紹介します。

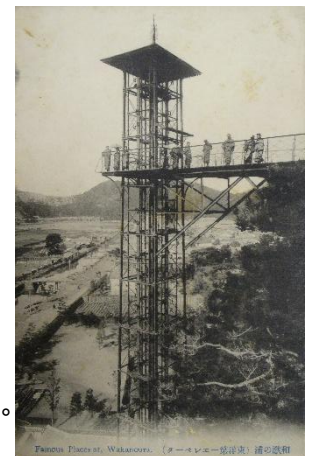


東照宮祭典費補助尊名記 紀州東照宮蔵

### 3. 和歌の浦が観光地として開発されていく様子を紹介합니다。

明治時代以降、和歌の浦は観光地として盛んに整備されました。中でもよく知られているのが和歌の浦エレベーターです。明治時代末期、旅館望海楼の主人が奠供山に設置したこの屋外展望エレベーターは、日本初のもので、東洋一と称されました。近代和歌の浦のシンボルとして多く記録されています。

また、明治時代末期、事業家で元貴族院議員の森田庄兵衛が山林を買い取り、一帯を新和歌浦遊園地として開発していきます。それにより海岸沿いに旅館や料亭が建ち並び、多くの観光客で賑わっていた様子を、パンフレットや写真を通して紹介します。



〔絵葉書〕奠供山エレベーター